

経営比較分析表（平成28年度決算）

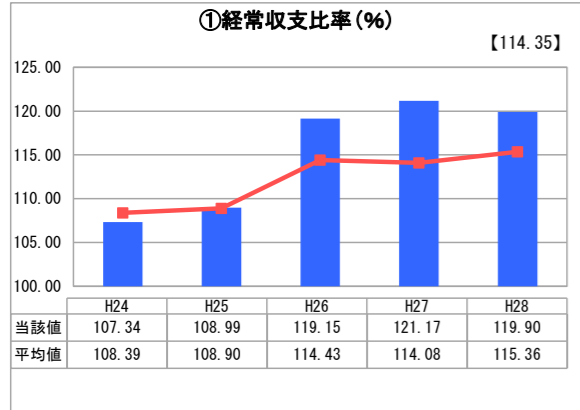
埼玉県 狭山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.09	99.30	2,214	

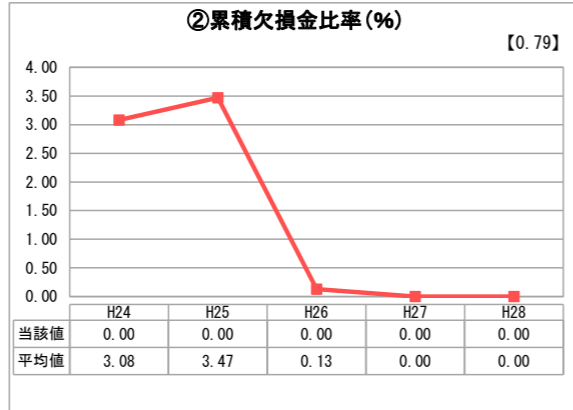
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
153,054	48.99	3,124.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
151,658	46.27	3,277.67

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

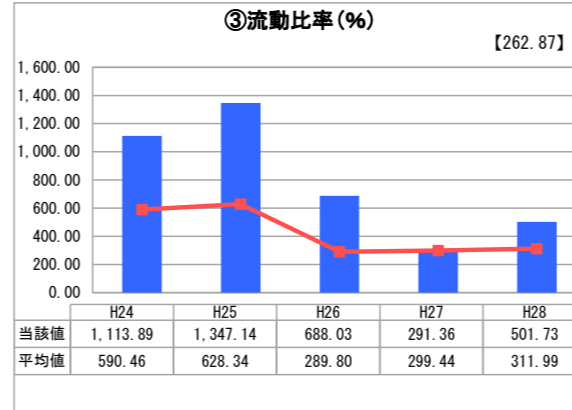
1. 経営の健全性・効率性



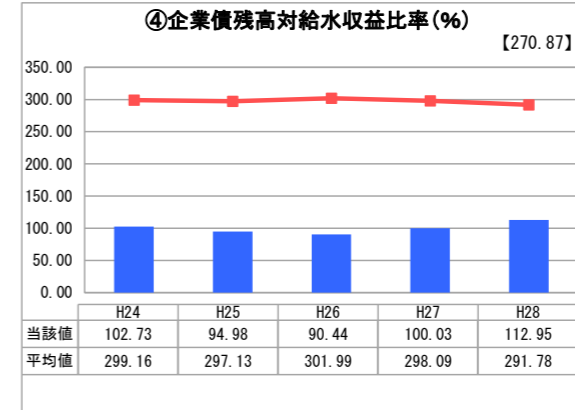
「経常損益」



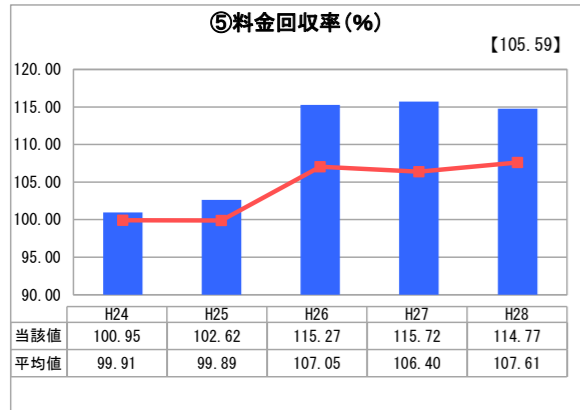
「累積欠損」



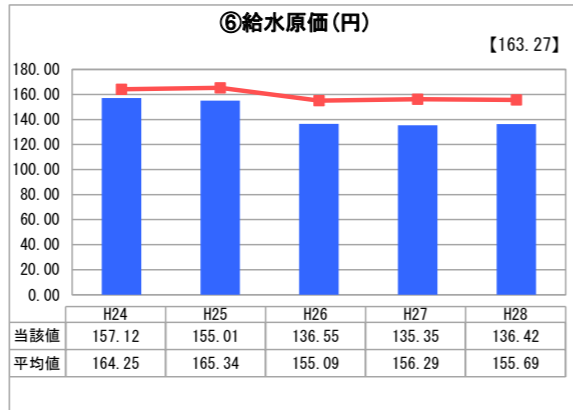
「支払能力」



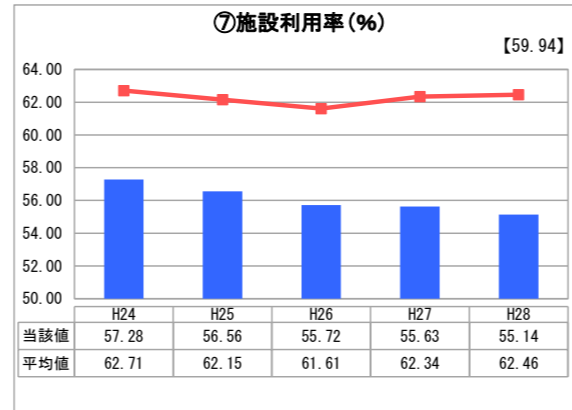
「債務残高」



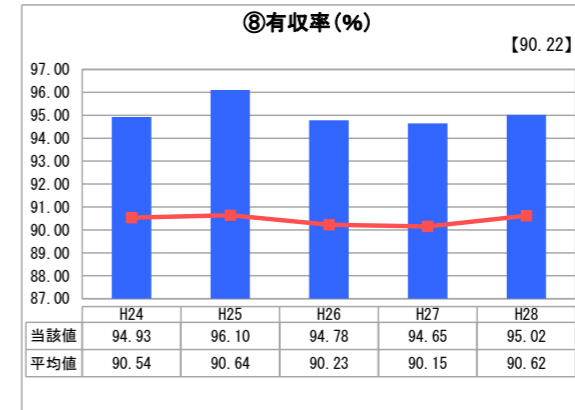
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

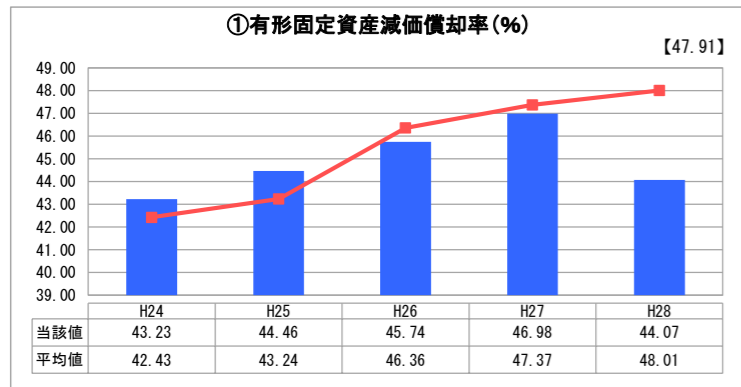


「施設の効率性」

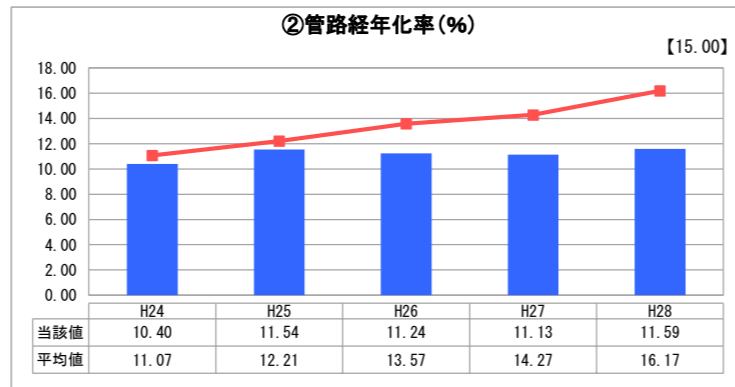


「供給した配水量の効率性」

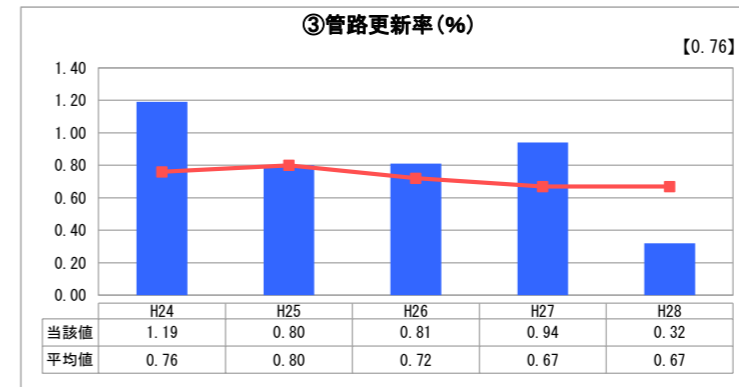
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
100%を超え、類似団体の平均値以上の水準にあり、現時点では事業に必要な経費を料金収入で賄うことができる健全な経営状態である。施設の更新等財源を確保するため一定の収益を確保する必要がある。また、施設の更新等を予定しており、経常収支比率低下の可能性はある。
- ② 流動比率
100%を超え、短期的な債務に対する支払能力は健全な状態である。今後、施設の更新等事業の財源として企業債借入を予定しており、数値の低下が予想される。
- ③ 企業債残高対給水収益比率
類似団体の平均値を大幅に下回っている。今後、施設の更新等事業の財源として企業債の借入を予定しており、数値の上昇が予想される。
- ④ 料金回収率
100%を超え、類似団体の平均値以上の水準にあり、給水に係る費用が給水収益で賄えている。
- ⑤ 給水原価
類似団体の平均値より低い水準であり、低価格で水を供給している。
- ⑥ 施設利用率
施設利用率は年々低下しており、類似団体より低い水準にあり、施設の稼働率が低いと判断される。今後見込まれる水需要の減少も踏まえ、施設規模を段階的に見直ししていく必要がある。
- ⑦ 有収率
類似団体の平均値を上回っており、老朽管の更新や施設の適正な維持管理がなされていると分析できる。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
類似団体の平均値と同水準で推移していたが、施設の更新等により指数の低下が見られる。
- ② 管路経年化率
類似団体の平均値を下回っているものの、法定耐用年数内での更新に追いついていない状況である。なお、本市では諸基準に基づいた市の更新基準を設けている。
- ③ 管路更新率
類似団体の平均値を下回っており、適切な維持管理を計画的に行う必要がある。
老朽管（塩化ビニール管等）については、平成22年度までに更新する計画である。

全体総括

経営の状況としては、経営に必要な経費を料金で賄うことができる健全な経営状態であると分析できる。しかしながら、施設利用率や管路更新率が類似団体の平均値を下回っていることから、施設や管路の維持や更新が課題であると分析される。今後も、人口減少による水需要の動向を見据えたなかで、施設規模の見直しや老朽化した施設や管路の更新を計画的に進め、安定的な給水体制の維持や、効率的な事業経営を進めていく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。